

音楽科 学習指導案の書き方例

1 題材名 「〇〇〇〇を〇〇〇〇しよう」

題材名は、学習内容と活動が子どもたちにもはっきりとイメージできる名称が望ましい。

2 題材の目標

- ・この題材を通して育て、身に付けさせたい力を、学習指導要領の目標や内容と関連付けて具体的に記述する。
- ・総合的にとらえて一文で述べる場合、(1) (2)・・・と、評価の観点毎に箇条書きにする場合、どちらにおいても、文末は児童生徒の立場から「～する」「身に付ける」「～について思いや意図を持つ」「取り組む」「親しむ」等の表現で記述する。

3 指導に当たって

(1) 題材観

- ・なぜこのような題材を設定したのか（選択した理由）について、学習指導要領の内容との関連で述べる。
- ・題材のもつ価値や内容、意図するところを明確にする。

(2) 児童（生徒）観

- ・題材に対する児童生徒の受け止め方や題材に関するレディネス（学習する内容の現在の実態）などを分析的に記述する。
- ・この題材による活動を通して、育てたい児童生徒の姿について述べる。

(3) 指導観

- ・題材の目標で示した力を育成するために、教師の願いや思い、指導の意図や見通しを明確に記述する。
- ・指導に当たり、どのような指導や支援の手だてをとるか（指導の工夫）を具体的に述べる。（このような場面で、このような方法で・・・）

4 教材について

- ・題材の目標を実現するために、なぜこの教材を選択したかを述べる。
- ・楽曲の構成や特徴を分析することが必要となると同時に、指導要領の内容の「表現」及び「鑑賞」に示された教材選択の観点との関連も考慮して述べる必要がある。

5 題材の評価規準

- ・題材の目標を実現する学習活動等に応じて、学習状況を適切に評価することのできる評価規準を具体的に設定することが大切である。

(参考例①) 「A 表現・歌唱」「A 表現・器楽」を関連付けた題材 (小学校第4学年)

※国立教育政策研究所 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 より

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①[技] 思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。(歌唱)</p> <p>②[知] 曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。(歌唱, 器楽)</p> <p>③[知技] リコーダーの音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けてリコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。(器楽)</p>	<p>[思]① 旋律, フレーズ, 反復, 変化を聴き取り, それらの働きが生み出すよさや面白さ, 美しさを感じ取りながら, 聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え, 曲の特徴を捉えた表現を工夫し, どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌唱)</p> <p>[思]② 旋律, フレーズ, 反復, 変化を聴き取り, それらの働きが生み出すよさや面白さ, 美しさを感じ取りながら, 聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え, 曲の特徴を捉えた表現を工夫し, どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(器楽)</p>	<p>[態]① 曲の特徴を捉えて表現する学習に興味をもち, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組もうとしている。(歌唱, 器楽)</p>

(参考例②) 「A 表現・音楽づくり」「B 鑑賞」を関連付けた題材 (小学校第1学年)

※国立教育政策研究所 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 より

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①[知] 打楽器の音の特徴について, それらが生み出す面白さなどと関わらせて気付いている。(音楽づくり)</p> <p>②[知] 曲想と打楽器の音色やリズムなどの特徴との関わりについて気付いている。(鑑賞)</p> <p>③[技] 発想を生かした表現をするために必要な, 設定した条件に基づいて, 打楽器の音色やリズムなどを生かしながら即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付けている。(音楽づくり)</p>	<p>[思]① 音色やリズムを聴き取り, それらの働きが生み出すよさや面白さ, 美しさを感じ取りながら, 聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え, 様子を表す曲の楽しさを見だし, 曲全体を味わって聴いている。(鑑賞)</p> <p>[思]② 打楽器の音色やリズムを聴き取り, それらの働きが生み出すよさや面白さ, 美しさを感じ取りながら, 聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え, 音遊びを通して, 音楽づくりの発想を得ている。(音楽づくり)</p>	<p>[態]① 打楽器の音色やリズムに興味をもち, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりや鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(音楽づくり, 鑑賞)</p>

- ・「知識・技能」の評価規準について、「B 鑑賞」の題材においては、技能については設定しない。
- ・各観点において記録に残す場面の順に番号を付しているが、「知識・技能」の評価規準においては、「知識・技能」の観点を通して番号を付し、その後に[知], [技], [知][技]の区分を表記している。

6 指導と評価の計画

(本時○/□時間)

次	時間	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
		◎「とんび」の曲の特徴を捉えた表現を工夫して歌う。			
	第1時	<p>○「とんび」の歌詞の表す様子や旋律の反復など曲の特徴を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱を聴いて感じたことを発表する。 ・ 歌詞を読んだり、とんびが空を舞う写真を見たりしながら、歌詞の表す様子や雰囲気を感じ取る。 ・ リズムや音程に気を付けて、楽譜を見ながら歌詞唱する。 ・ 曲の特徴的なところをワークシートに書いて発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【児童の記述例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ピンヨローのところは、とんびが鳴きながら飛んでいる様子を歌っていて面白い。 ・ 歌詞の表す様子を思い浮かべながら歌う。 </div> <p>○「とんび」の曲の特徴を捉えて表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第3フレーズ（9～12小節）の「ピンヨロー」の部分について、とんびが鳴きながら飛ぶ様子や、旋律の反復などの特徴を捉えて表現を工夫する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【児童の工夫例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とんびが鳴きながら近付いてきて、去っていく様子を表現したいから、前半2小節は <i>f</i> で後半2小節は <i>p</i> で歌おう。 ・ 第1時で学習した表現を生かして、全員で「とんび」を歌う。 </div>			
第一次	第2時	<p>○旋律、フレーズ、反復、変化などをよりどころにして、「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時を振り返り、第3フレーズの「ピンヨロー」の部分について表現を工夫して歌う。 ・ 歌いながら、旋律の動きに合わせて手を動かす。 ・ 歌いながら第1、2、4フレーズの旋律の反復や、第3フレーズでの変化について気付いたことをワークシートに書く（第1フレーズ：1～4小節／第2フレーズ：5～8小節／第4フレーズ：13～16小節）。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【児童の記述例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1段目と2段目は上がったたり下がったりする旋律の動きで、とんびがゆったり飛んでいる様子を表している。 ・ 1段目と2段目の旋律の動きがよく似ているけれど、3段目は全然違う。 </div> <p>○「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いたことを生かして表現を工夫し、思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1、2、4フレーズと第3フレーズの動きの違いに着目して考えたり歌ったりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【児童の工夫例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1、2、4段目では旋律の音が上がるときクレシェンド、下がるときデクレシェンドすると、とんびがゆったりと飛んでいる様子が伝わるかな。 ・ 3段目は他の部分と違って、とんびの鳴いている様子を表現するように、遠くまで響くような歌い方で歌えるようにしましょう。 </div> <p>○第1～2時で学習したことを生かし、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌う。</p>	② 知記述・発言	① 記述・発言・聴取	① 技聴取

7 本時の学習指導

(1) 本時の目標

(2) 指導に当たって

- ・授業場面の「どこで」「どのような働きかけを」「なぜ行うのか」などについて、教師の働きかけを具体的に書く。(研究の視点と視点からの手だてを端的に示す。)

(3) 学習活動の展開と評価 (学習指導過程)

段階	学 習 活 動	予想される児童生徒の反応	指導者の関わり	評価の観点と方法
	1 ※児童生徒の立場からの記述 2 3	・ ※予想される児童生徒の反応を具体的に明示する。	○ ※児童生徒の実態を思い浮かべながら、具体的な指導・支援を指導案作成の段階で準備し、記述する。	♪ ※【観点・方法】 【十分満足できると判断する視点】 【努力を要する状況と判断される生徒への手だて】 (評価は1～2)

8 板書計画

9 準備物 (児童生徒, 教師)

♪ 以上のものを、ひとつの書き方の例として、各学校の研究、または部会等のテーマに沿って検討を加えながら、作成にご活用下さい。 ♪